

長篇小説

去り行く者 (2)

三田村の死刑

如月葉作

昨夜は月が好かつたなあ
彼はぼつと教くなつた、美
しい月の夜に妙にセンチに
なつた道子と彼の抱擁を
思ひ出したのだ「何故あんな
な氣になつたのだらう」俺
は彼は苦笑しながらも柔ら
かな妙子の胸の觸感をあの
白い匂ふ頬を忘れかねた、
なんだか今朝逢ふのは面映
いな彼は机上の朝刊を懐に
捻り込むと庭から海岸へ出
た早朝の浪は吹く潮風も
心地よく波に打洗はれた砂
は汀から美しく紋を畫いて
擴がつてゐる、人影は全く
ない彼は紫に赤に染め出さ
れてる空を眺めつ、胸いつ
ぱいに大氣を吸ひ込んだ、
俺の体も大丈夫だな彼はめ
つきり肉着いた腕を打振り
「少も續けた、とつこい
つしよ彼は松の根本に腰を
下して朝刊を取り出したこ
うして讀む新聞は整然と頭
に吹込まれる彼の最も樂し
い日課の一つだ、「呀」彼の
手からはたりと續つて空
しく下ちた、彼の面は蒼白
である「三田村が死刑だ三
田村が……遂うくやられた
俺に眞の生活を教しへてく
れたあの人が、彼の眼には
今や上らんとする壯美な日
の出も入らなかつた、彼は
家へ入るや親友吉村へ震へ
る手で手紙を書き始めた。

暑中御見舞申上候

釜屋店商
電話九番九九番

石城郡町村長	小松重兵衛 小名濱町	黒澤島雄 小名濱町	金親費 豐間村
小名濱運送株式會社 電百〇六番	鈴木榮 小名濱町	坂本欽一郎 小名濱町	海水浴旅館 小名濱ホテル
久野純弘 小名濱町	平町旅館組合	近藤安雄 小名濱町	吉田屋 電話十四番
金成通 植田町	佐瀬恒夫 小名濱町	馬目安一 小名濱町	開店御披露 圖書、出版、雜誌 小名濱町古港一
鷺清昇 植田町	樋口速 小名濱町	中野鉄之助 小名濱町	布袋屋書店
柴田書店 平町四丁目	入山探炭株式會社 坑務所 湯本	野崎長次郎 小名濱町	上田醫院 平町南町
中村醫院 小名濱町	磐城建物株式會社 平町五丁目	今出川廣 小名濱町	清水屋本店 小名濱町 電話六番
高久病院 平町田町	上野代收造 小名濱町	磐城海岸軌道株式會社 小名濱町	宮津醫院 小名濱町
山野邊東次郎 平町五丁目	牧田豊 小名濱町	二本松電氣株式會社 小名濱支店	佐藤醫院 小名濱町西町 電話一〇七番
		豐間大敷漁場	